

千住宿と神社を巡るコース

千住宿は日光街道及び奥州街道の初宿で、江戸四宿の1つ。宿場町の風情を求めて旧日光街道を歩き、神社巡りをしてみては？



① 松尾芭蕉像 (B-2)
まつお ばしゅうそう
元禄2年(1689)3月27日、松尾芭蕉は、千住の地から奥の細道の旅へと出発し、矢立初めの句「行春や鳥啼き魚の目は泪」を詠みました。この松尾芭蕉像は、彫刻家平野千里氏により制作され、奥の細道千住あらわサミットが開催された平成27年3月に矢立初めの地千住を象徴する像として建立されました。【荒川区南千住 4-5】



② 荒川ふるさと文化館 (B-2)
あらかわ ふんか かん
荒川区の博物館。荒川区の歴史・文化を楽しむながら学び、探求できます。昭和41年の復元家屋が人気です。また、松尾芭蕉・曾良像や回向院にあった「橋本左内の墓田套堂」があります。☎03-3807-9234 入館料/100円 開館時間/9:00~17:00(入館は~16:30) 休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日) 【荒川区南千住 6-63-1】



③ 千住宿歴史ブチテラス (B-2)
せんじゅしゆくれきし
天保元年(1830)に建築された横山家の土蔵を復元し、区民ギャラリーとして貸し出しています。一般展示のほか、「やっちゃあ展覧」などに合わせて開館し、内部の見学が可能です。入館料・使用料/無料 開館日時/土・日・祝 10時~16時(展示内容により、変更になる場合があります) ※詳細は足立区HPにてご確認ください 【足立区千住河原町 2-1-11】



④ 絵馬屋・吉田家 (A-2)
えまや よしだけ
江戸時代後期から際作問屋として、絵馬・地口絵紙・扇などを描いてきた、当代で8代目という老舗吉田家。東京で数少ない手描きの絵馬屋です。【足立区千住 4-15-8】 ※見学は外観のみ



⑤ 延命寺・小塚原刑場跡 (B-2)
えんめいじ こづかばらけいじょうあと
品川の鈴ヶ森刑場と並ぶ江戸の刑場で、明治時代初めに廃止されるまで、磔(はりつけ)・斬首などが執行されていました。「小塚原の首切地蔵」(荒川区指定有形文化財<歴史資料>)が、江戸の刑死者をはじめとする無縁の霊を静かに見守っています。【荒川区南千住 2-34-5】



⑥ 日枝神社・山王清兵衛 (B-2)
ひえじんじや さんおう せいべえ
日枝神社は、江戸時代山王社とよばれた旧千住宿中村町の鎮守です。神社の参道入り口にあたる旧砂尾堤土手の北端に、歯痛に耐え切らず、この地で切腹した清兵衛という武士を祀った小祠があります。以来、歯痛に悩む人々が祈願し、効果があれば、猫をくわえた婦人の絵馬を奉納するようになったといわれています。【荒川区南千住 7-2-3】



⑦ 勝専寺 (A-2)
しょうせんじ
文応元年(1260)に創建された浄土宗の寺院(本尊は阿彌陀如来)です。朱塗りの山門から「赤門寺」とよばれ親しまれています。山門にある「三宮神山」の鳥居は、明治12年(1879)に明治天皇の勝専寺御巡幸を記念して掲げられました。境内の閻魔堂には朱塗りの木造閻魔王坐像が安置されており、毎年1月15・16日、7月15・16日に開帳され縁日で賑わいます。また、荒川から引き上げられ千住の地名の由来になったといわれる木造千手観音立像も安置されています(非公開)。【足立区千住 2-1-1】



⑧ 横山家住宅 (A-2)
よこやまけいじゅうたく
旧地蔵問屋「松屋」横山家の家屋は江戸時代後期の建築で、商家の面影を今に伝えています。庇の柱に残っている傷痕は、官軍と戦った彰義隊士が刀で斬りつけたものと伝えられています。【足立区千住 4-28-1】 ※見学は外観のみ



⑨ 回向院 (B-2)
えこういん
吉田松陰・橋本左内ら幕末の志士の墓や、鼠小僧次郎吉・片岡直次郎・高橋お伝らの墓があります。杉田玄白や前野良沢らがここでの刑死者の解剖見学をきっかけに「解体新書」を翻訳したことから、近代医学発祥の地として観臓記念碑が建てられました。【荒川区南千住 5-33-13】



⑩ 熊野神社 (B-2)
くまの じんじや
永承5年(1050)に、奥州攻めに向かっていた源義家が荒川(現隅田川)の渡河を祈願し、熊野の御幣を荒川に架ける時、関東郡代伊奈備前守忠次は当社に成就を祈願し、文禄3年(1594)橋の完成にあたり、その御用材で社殿の修理を行いました。以後、千住大橋の守護神として祀られ、橋の架け替えごとの祈願と社殿修理が慣例になったといわれています。【荒川区南千住 6-70】



⑪ 千住宿本陣跡・見番横丁 (A-2)
せんじゅしゆくほんじんあと けんぱんよこちょう
大名が参勤交代を行う際に宿泊する場所を、本陣といいました。現在の千住三丁目にあり、今は、路地裏にその当時の物語った説明板があるのみ。また、この説明板のある路地を、見番横丁といいますが、ちょうど路の中程の二丁目側に、かつて見番(芸者が所属し、客席への取次ぎや精算を行う事務所)があったからです。【足立区千住 3-33】



⑫ 虹の広場 (A-2)
にじ ひろば
「虹の広場」は虹模様のカラーブロックが目印です。河川敷トイレの壁に七色の虹が描かれ、周囲には季節の花々が咲き、訪れた人々を迎えてくれます。また、区民まつりなど、大型イベントも開催されます。【足立区千住五丁目地先】



⑬ 素盞雄神社・矢立初めの句碑 (B-2)
すさのおじんじや やたてはじのくひ
荒川区内で最も広い氏子域をもつ鎮守です。6月の天王祭では、担ぎ棒2本のみで屋根の鳳凰が地面につくほど神輿を左右に激しく振る勇壮な二天の神輿振り姿が圧巻です。また、江戸時代文政3年(1820)に、南北の千住宿の文人らによって建てられた、松尾芭蕉の奥の細道矢立初めの句を刻んだ句碑(荒川区指定有形文化財<歴史資料>)があります。【荒川区南千住 6-60-1】



⑭ 足立市場・芭蕉像 (B-2)
あだちしじょう ばしゅうそう
千住大橋駅から徒歩5分のところにある都内唯一の水産専門市場です。一部の店舗では、一般の人でも買物をする事ができ、正門詰所には、見学者用のしおりもあります。市場内の食堂などにも自由に入れます。(休市日:日曜・祝日・一部の水曜)市場の入口横には、芭蕉像があります。【足立区千住橋戸町 47】



⑮ お休み処「千住街の駅」 (A-2)
やすみどころ せんじゅまち えき
千住の宿場町通りに、元魚屋さんの店舗を利用して、レトロな雰囲気をかもし出す、お休み処「千住街の駅」があります。街歩きに役立つマップや、足立区を知ることのできるパネル展示などがあります。☎080-6630-8037 開館時間/9:00~17:00(1月1~3日は10:00~16:00) 休館日/火曜日(祝日)1月1~3日を除く12月29~31日 【足立区千住 3-69】



⑯ 名倉医院 (A-3)
なぐら いん
1770年頃から、柔術などを教えながら骨接ぎを手がけていた、千住名倉医院。入口は長屋門で、江戸時代の名残があります。【足立区千住 5-22-1】 ※見学は外観のみ

水辺と公園を巡るコース

季節折々の美しい草花を眺めながら、平日常と違う癒しの時間を過ごそう。



① 荒川土手 (A-3)
あらかわどて
荒川の土手からの景色は見晴らしが良く、眺望が素晴らしいスポットです。土手の内側を含む舗装部分は、ランニングやサイクリングを楽しむ人々で賑わっています。散歩コースとしても人気が高く、老若男女問わず憩いの場となっています。【足立区柳原一丁目から二丁目地先】



② 柳原千草園 (A-3)
やなぎはらちぐさえん
園内は季節ごとの特色がでるように、「春の広場」「夏の庭」「秋・冬の山」に分かれています。「春の広場」では、サクランボを中心に春に咲く植物を集めています。「夏の庭」では、薬山にジャクナゲやアジサイなど梅雨時から夏にかけて咲く花を植えています。「秋・冬の山」では、イタヤカエデなどのカエデ類を中心に黄葉・紅葉するものや実のなる木を集めました。一年を通して草花が楽しめる公園です。【足立区柳原 1-21-26】



③ 千住大川端公園 (B-3)
せんじゅ おおかわばたこうえん
堀切橋から墨堤通りの交差点を抜け隅田川に向かうと、川面に沿って千住大川端公園があります。正面に東京スカイツリーを望みながら、隅田川をながめてのんびりと過ごすことができます。4月中旬から下旬にかけて、赤・薄桃・白のツツジが、鮮やかに斜面を覆います。【足立区千住曙町 41-10】



④ 隅田川沿いのサクラ並木 (B-3)
すみだがわぞろ なみき
千住汐入大橋から西側、隅田川堤防沿いの遊歩道に沿って、サクラ並木が続いています。このサクラは早咲きで、例年3月上旬から中旬ごろに見ごろを迎え、ピンク色の花が行く人の目を和ませます。【荒川区南千住八丁目】



⑤ 都立汐入公園 (B-3)
とけいしゅういりこうえん
瑞光橋から水神大橋、そして千住汐入大橋の先まで、スーパー堤防の上に隅田川に沿った形で造られた12.9haの公園です。公園の南側は、テニスコートなどの運動施設、バーベキューができる広場があり、北側は広い芝生広場を中心に、野外ステージ、展望広場などがあります。隅田川沿いの園路は、ジョギング・散歩コースにもなっています。【荒川区南千住 8-13~16】



⑥ 瑞光橋公園 (B-3)
みづこうばしこうえん
隅田川の入り江とスーパー堤防を利用して造った公園です。かつて汐入地区には、運河がありました。その時活躍した水門の一部が、モニュメントとなって残っています。入り江の近くまでいけるテラスで、水辺の生き物などの観察ができます。【荒川区南千住 8-18-1】



⑦ 科学技術展示館 (B-3)
かがくぎじゆつてんじかん
都立産業技術高等専門学校(旧航空工業高等専門学校)にあり、国内でも貴重な重要航空遺産の飛行機やヘリコプターをはじめ、NHKロボコン出場のロボットなどが間近に見られます。年10回程度一般公開しています。公開日以外でも団体で見学を希望する場合は事前にお問い合わせください。☎03-3801-0145 ※詳細は産業技術高等専門学校HPにてご確認ください 【荒川区南千住 8-17-1】



⑧ ドナウ通り (B-2)
どなう
オーストリア共和国ウィーン市ドナウシュタット区と友好都市提携を結んだ記念として、駅前にドナウ広場とドナウ通りが整備されました。春はツツジの開花、秋はモミジバフウの紅葉が美しく、来街者の目を楽しませています。【荒川区南千住四丁目】

千住の由来

千住という地名は、戦国時代の末頃から確認できます。千住の由来は『新編武蔵風土記』(1822年)に採録された話で、1327年に新井正次が荒川(現隅田川)から引き上げ、勝専寺にまつられた千手観音に因むという説や、『南足立郡誌』(1916年)に採録された話で、戦国時代の領主千葉氏が住んだことに因むなど、諸説があります。いずれも伝説の域を出ませんが、多くの人々が千住に愛着を持ち、地名に親しんだ証拠です。(『足立風土記』より)

千住大橋と千住汐入大橋

◆千住大橋 (せんじゅおおはし)
徳川家康が江戸に入って、隅田川に初めて架けた橋です。かつては、小塚原天王社(現素盞雄神社)の天王祭の中で、千住大橋綱引きとよばれた神事が行われ、橋の上に綱を渡して、両側の町の人たちが引き合いました。素盞雄神社の境内には、荒川に架かる綱を巻いた千住大橋を模した橋があります。千住宿は江戸の北の玄関口であり、松尾芭蕉もここから奥州へと旅立ちました。歌川広重の「名所江戸百景 千住の大はし」にも描かれています。

◆千住汐入大橋 (せんじゅしゅういりおおはし)
汐入地区と足立区千住曙町を結ぶ千住汐入大橋は、平成18年2月に隅田川に架けられた橋です。橋名は隅田川で最後まで運行され、昭和41年に廃止された渡し船「汐入の渡し」にちなんで名づけられました。ちなみに、幸田露伴は随筆「水の東京」の中で、この辺りから見る仲秋の月の眺めは、東京のどの場所よりも良いとしています。

千住地域の年間イベント情報

1月1~7日(通常)	千寿七福神めぐり
1月15・16日	勝専寺えんま開き
2月下旬~4月上旬	素盞雄神社桃まつり
5月下旬	足立の花火
6月上旬	天王祭(素盞雄神社例大祭)
7月15・16日	勝専寺えんま開き
9月下旬	JR隅田川駅貨物フェスティバル
10月中旬	あだち区民まつり

(一財)足立区観光交流協会
公式HP、SNS

ホームページ Instagram

荒川区観光ボランティアガイド

- 千住地域等を散策したい場合は、ガイドが原則無料でご案内いたします。
- ◆お申し込み、お問い合わせは…
- ・荒川区観光ボランティアガイドの事務局
- Tel: 03-3802-3111 (内線461)